

## (2) 校内研修の見直しを促す提案の実際

### イ 学校支援における提案

#### (7) DVD視聴・演習・協議を組み合わせた校内研修の提案

平成28年7月にA高等学校（県立・定時制）から校内研修の依頼があり、担当者と連絡を取り合いながら、教師が主体的に研修に参加し、学びを深めることができるように、以下のような研修を提案し、実施することにしました。

#### 1 はじめに ～人権感覚チェックリスト～

使用資料 『奈良市人権教育推進についての指針』 指導者用資料実践事例集

#### 2 DVD「ほんとの空」視聴（36分 字幕・副音声あり 2012年東映製作）

企画／兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会 企画協力／兵庫県教育委員会

※佐賀県県民環境部人権・同和对策課の無料貸出を利用

#### 3 演習・協議 人に「やさしいところ」・「気になるところ」

使用資料 福岡市人権啓発センター発行

『気づいていますか？大切な事 一人ひとりが自分らしく暮らせる街へ』

平成23年3月改訂版

pp. 1-2 「みつけてみよう！人にやさしいところや気になるところ」

#### 4 おわりに ～子どもとつながる、子どもをつなぐ、子どもがつながる実践～

研修時間は90分（うち30分程度がDVD視聴）で計画し、講師の一方的な講義ではなく、演習・協議を組み合わせた研修として提案・実施しました。

この学校は毎年90分～120分で研修を計画され、これまでもDVD視聴と協議の時間を組み合わせた形での研修をされていたこともあり、今回の研修においても先生方の積極的な姿勢が見受けられ、DVD視聴後の演習・協議も大いに盛り上がり、それぞれの思いを語り合われていました。

人権・同和教育に関する研修は、ともすれば、「余計なことは言わない方がいい」「黙って講師の話を聴いておくもの」という、どこかよそよそしく、他人事として捉えられる向きがあります。そのような教師の姿勢は、各高等学校で実施されているホームルームでの「人権学習・進路保障ホームルーム」の授業の折に教師の言葉となって出てくる場合があります。

「この授業はまじめに受けるように」「他の人と喋ったりせずに、黙って聞くこと」などの教師が授業の初めに発する言葉によって、本来、生徒の自由な発言や発想を生かし、人権課題の解決を目指す人権学習の時間が、生徒は黙って聞いておくだけの人権課題の学習に終わってしまわないようにする必要があります。

A高等学校の先生方はこの研修において、DVDを視聴した感想を話す際や演習・協議において意見を述べる際、自分自身の言葉で、自分自身の思いを率直に語られていました。もともと職員数が少ないこともあり、ふだんからコミュニケーションがとれているということもあったとは思いますが、一人一人の感想や意見を大切に作る雰囲気できていたことが活発な協議になった要因であると考えます。そして、誰一人として受け身的になることなく、

主体的に研修に臨む姿勢が見受けられたことも大きかったといえます。

素朴な疑問や誤った考えに対して、揶揄したり否定したりするのではなく、受容しながら、なぜそのように考えるようになったかを聞き取り、自分の考えを伝え、相手に再考を促すというような光景がこの研修では見受けられました。誰もが自由に自分の考えを述べることができる場、自分はここに居ていいんだという安心感、まさに「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」で示されている「安心して過ごせる学校・教室」<sup>①</sup>を具現化したものがこの研修の場にはあったといえます。

生徒にとって「安心して過ごせる学校・教室」とするためには、その「人権が尊重される環境づくり」<sup>②</sup>を担う教師同士が「安心して過ごせる学校・教室」でなければなりません。その意味からも、この研修を通して、ふだんの教師同士のコミュニケーションの大切さや「安心して過ごせる学校・教室」を体感し、その居心地の良さを実感して、これを生徒に還元していけるようにしようとする研修を実施することの大切さが明らかになりました。



## DVD 「ほんとの空」 紹介にかえて

このDVDを視聴して、誰もが他者の排除や差別がよくないことを理解していながら、自分や身近な人に関わる出来事の際には敏感に反応するものの、それ以外は他人事のように感じ、生活しているのだということに改めて気付かせられます。

様々な人権課題(高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題等)がこのDVDでは取り上げられています。これら多くの人権課題に共通する根っこの部分には、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見があります。

視聴後の協議を通して、自分自身のもつ誤解や偏見に気付くことや、人と深く向き合うこと、他者の気持ちを自分のこととして考えてみる事が大事であること、全ての人権課題を自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげることが大切である、ということ学び合えるDVDです。

※ 貸出については、佐賀県 県民環境部人権・同和対策課（電話：0952-25-7063）にお問い合わせください。

## (イ) 講義・演習・協議を組み合わせた校内研修の提案

平成28年10月にB高等学校（県立・全日制普通）において校内研修を行いました。この学校も毎年校内研修を実施されており、2年連続で講師依頼を受けました。昨年度は講義中心の研修であったため、事前の担当者との打ち合わせの段階で、今年度は講義の中に演習・協議を組み込んだ形での60分での研修を提案し、実施することになりました。

## 使用資料

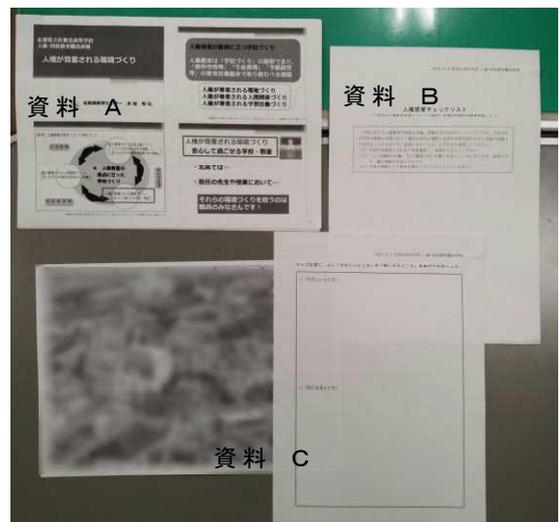
- ・自作プレゼンテーション資料 「人権が尊重される環境づくり」 （資料 A）
- ・人権感覚チェックリスト （資料 B）  
『奈良市人権教育推進についての指針』 指導者用資料実践事例集
- ・人に「やさしいところ」・「気になるところ」 （資料 C）  
福岡市人権啓発センター発行  
『気づいていますか？大切な事 一人ひとりが自分らしく暮らせる街へ』  
平成23年3月改訂版  
pp. 1-2 「みつけてみよう！人にやさしいところや気になるところ」

このB高等学校は、普通科高校としてはクラス数も多く、大学進学を中心とする進学校であると同時に運動部・文化部ともに全国レベルの部活動もあるなど、活気に満ちた学校です。

職員数も多く、講師の数も多いことから、担当者からは人権・同和教育の基礎的な研修と同時に職員の人権意識に関しての研修の願いがありました。研修の日程については、放課後も個別の学習指導や部活動の指導でなかなか時間がとれないこともあり、定期考査前の部活動が休みとなる放課後の60分が校内研修の時間に充てられました。

講義に関しては、一方的な講師からの話ではただ聴いておくだけの研修となることから、「思い込み」や「ふだんの自分の生活」、「人権感覚」を考える演習を組み込み、それぞれの先生方が考え記入し、周りの方と見せ合い語り合う場面を多く設定したものを行いました。職員数が多いことや年齢層も多様なことから、若い先生と年配の先生ではこのような研修への取組も異なるだろうと想像していましたが、最初の演習から年齢に関係なく、時折笑い声や感嘆の声もあがる和気あいあいとした雰囲気の中での研修となりました。

そして、A高等学校でも行った資料を用いた演習の場面では、配布した資料を熱心に見て、気付いたところを赤ペンで囲んだり、その理由を用紙に記入される先生方の姿がありました。近くの人との意見交換でも、「ああ、それ気付かなかった」「なるほど、そういう見方もあるよねえ」などの声があがっていました。この演習を通して気付いて欲しかった「誰もが自分と同じ考えとは限らない」「見方を変え



資料1 当日の配布資料

ることで違うものが見えてくる」ということを、こちらが伝える前に参加者自身が他の参加者と話し合う中で気づき、感じられている姿が見受けられました。

演習を組み込んだ講義の場合、時間の配分の難しさや講義の部分が長くなることにより演習の時間が十分に取れずに消化不良となる場合があります。今回は次の2つのことから消化不良とならずに講義・演習がスムーズにできたと考えます。まず一つは、講義の部分を基礎的な内容に精選し、演習の時間を確実に確保できたこと。これにより、講義の内容を十分に理解してもらうとともに、演習も余裕をもって取り組んでもらうことができました。もう一つは、人事異動で先生方の入れ替わりはあるものの、この学校が毎年校内研修を実施されていたことから、先生方の中にも人権・同和教育の大切さを感じられている方がいらっしやったこと。そのような先生が演習に積極的に取り組み、協議をリードしてもらったことにより、他の先生方にとっても主体的・対話的な研修となったと考えられます。

終了後、参加した先生方からは、「あつという間の60分でした」「これまでの研修と違って楽しく学べました」などの言葉を掛けてもらいました。担任をしているという若い先生からは「演習で使った資料はどうしたら入手できますか？」の質問もあり、「ぜひ、授業でも使ってみたい」との声を聞くことができました。

今回の研修は、昨年度が講義中心だったということもあり、先生方に自由に考え、語る時間を演習・協議でつくることに力点を置きました。その結果、先生方の研修、とりわけ人権・同和教育の研修という堅いイメージを崩し、先生方の主体的・対話的な学びを促す研修となったと考えます。同時に、このような研修を実施することで、先生方の意識が変わり、人権学習の時間においても、演習・協議等を取り入れ、生徒が主体的・対話的に学び、より深い学びが実現していくのではないかと考えられます。



(イ) 講義・演習・協議を組み合わせた校内研修の提案で使用した自作プレゼンテーション資料は、トップページのおすすめコンテンツに掲載しています。ご活用ください！

## 《引用文献》

- (1)(2) 文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]～指導等の在り方編～』 平成20年3月 p.11